

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(4)-ウ	優れた人材を育み地域の発展に寄与する高等教育の推進	施策	① 大学等の教育研究環境の充実及び地域貢献活動の促進
			施策の小項目名	○地域貢献活動等の促進
主な取組	地域における研究者の研究成果の情報発信			
対応する主な課題	②また、大学等の社会貢献が求められる中、大学等が持つインフラや生み出した優れた研究成果等を県民生活の向上やものづくり産業振興に結びつけるなど、高等教育機関と産業界や地域等が連携し、地域社会への還元につながる取組を促進する必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
本県における知的・産業クラスター形成に向けた、県民意識の向上を図るため、沖縄科学技術大学院大学（以下、OIST）を県民へ広く広報し、OISTの取組や科学技術に対する知的好奇心を向上させる。		施設見学：通年、出前講座：年2回程度				
		研究機関や開発企業等による施設見学、県民向け出前講座等の実施促進				
実施主体	県、高等教育機関					
担当部課【連絡先】	企画部科学技術振興課		【098-866-2560】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	—						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：理系女子人材育成講座（1回）や離島地域での科学実験教室開催（1回）、高校生によるビジネスプランコンテスト開催（1回）等の支援を行った。 OR3年度：引き続き、OISTの広報活動を支援するとともに、産業界から関心を集める取組の周知を図る。

予算事業名	—						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：— OR3年度：—

様式1(主な取組)

活動指標名	研究機関や開発企業等による施設見学				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	通年実施	通年実施	通年実施	通年実施	当面停止 WEBキャン パスツアー動 画を公開	通年	100.0%	0	順調	<p>OISTのキャンパスを開放して開催されるサイエンスフェスタは新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底するため、オンラインで開催された。</p> <p>OISTの職員・研究員等による離島地域(粟国島)での出前講座、理系女子人材育成講座などの開催を支援し、研究者との交流を促進した。</p>
活動指標名	県民向け出前講座等の実施促進				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>オープンキャンパスの代替として、WEBキャンパスツアー動画を制作・公開している。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部イベントを取り止めたものの、OIST学生等による研究活動に関するオンライン講演、粟国島での科学実験教室の開催、高校生を対象としたビジネスプランコンテスト等の開催を支援する等、県民の科学技術への興味・関心を高めることができたと考えられることから概ね順調とした。</p>
	4件	4件	6件	3件	4件	2件	100.0%			
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
<p>・報道機関を通じた情報発信とともに、SNSを活用して、産業界向けにOISTの活動の周知を図る。</p>						<p>・粟国島の学生を対象とした科学実験教室や、高校生を対象としたビジネスアイデアコンテストなど、OIST主催イベントの開催支援を行った。</p> <p>・OISTの最新の研究成果など、報道機関への情報提供を行った。</p> <p>・SNS等を活用し、適宜、OIST主催イベントの周知を図った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 県民のOIST等の取組に関する理解を促すため、オンラインを活用したオープンキャンパスの開催等、研究成果の情報発信の場について情報提供を図る必要がある。

○外部環境の変化

・ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響はあるものの、OISTのオンラインサイエンスフェスタのライブイベントや録画配信を3,000人以上が鑑賞する等県民の科学技術に対する関心は高まりつつある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 科学実験教室やビジネスプランコンテスト等の継続的な開催支援を行うとともに、OISTの活動の意義や可能性について、県内産業界等に対して情報提供を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 報道機関を通じた情報発信とともに、SNSを活用して、産業界向けにOISTの活動の周知を図る。